

4 ワシントンにおけるシンポジウム等

■平成 30 年 9 月

(1) シンポジウムの傍聴 (21 日)

ハドソン研究所が主催するシンポジウムに参加しました。「戦略的島嶼防衛における米日協力」と題して、パネリスト3名が執筆した報告書「遠方の島嶼防衛における戦略・運用面での米日協力」について執筆者が議論するもので、中国の軍事力の台頭と東シナ海での領有権主張の高まりが日米にとっての課題となっているとの観点で議論が展開されました。

(2) シンポジウムの傍聴 (20 日)

ニューアメリカ財団が主催するシンポジウムに参加しました。「中国、アメリカ、そして新たな競争空間」と題して、米中関係における自然資源、技術革新、文化力・経済力を中心に識者が議論を交わしました。

(3) シンポジウムの傍聴 (19 日)

スティムソンセンターが主催するシンポジウムに参加しました。「選挙後における日本及び米国の優先事項」と題して、日本では自民党総裁選、米国では中間選挙が行われる中、選挙後の外交及び国家安全保障政策の優先事項について識者が意見を交わしました。

(4) シンポジウムの傍聴 (13 日)

ジョージワシントン大学が主催するシンポジウムに参加しました。「世界的激動の時代における日本の外交政策～日本の立憲民主党の視点～」と題して、立憲民主党の枝野幸男代表による講演及び質疑応答が行われました。

(5) シンポジウムの傍聴 (12 日)

国際台湾研究所が主催するシンポジウムに参加しました。「国際台湾研究所年次シンポジウム～米台関係の再確認及び強化～」と題する毎年開催のシンポジウムで、米台関係の課題（経済、安全保障等）について識者が意見を交わしました。

(6) シンポジウムの傍聴 (11 日)

スティムソンセンターが主催するシンポジウムに参加しました。「日本からの声～日本の戦略的見通し～」と題する毎年開催のシンポジウムとのことで今回は6回目。東アジアの安全保障環境が変化する中、日本の戦略的見通しについて議論が交わされました。

■平成 30 年 8 月

(1) シンポジウムの傍聴 (29 日)

カーネギー国際平和財団が主催するシンポジウムに参加しました。「米国・インド 2 + 2、ランドール G. シュライバー氏との対談」と題し、9 月 6 日の米国・インド 2 + 2 初回会合を前に、両国の外交・防衛協力等について、シュライバー国防次官補が語るものでした。シンポジウム終了後、シュライバー次官補に挨拶すると共に、同行者に沖縄の最近の状況等の資料を提供しました。

(2) シンポジウムの傍聴 (22 日)

ブルッキングス研究所が主催するシンポジウムに参加しました。「米韓同盟を再度描く」と題して、将来ある時点で北朝鮮の脅威が弱まったとしたら、米韓同盟はどう進化すべきなのかといった問い等に対して、識者が考えを共有し議論が交わされました。

(3) シンポジウムの傍聴 (7 日)

アトランティック・カウンシルが主催するシンポジウムに参加しました。「ギャビン・ウィリアムソン英国防大臣と語る」と題して開催され、米英関係及び英国の国防政策等について英国防大臣がスピーチを行い、会場等からの質問に応じるものでした。シンポジウム終了後、アトランティック・カウンシル暫定会長を務めるジェームズ・ジョーンズ氏に挨拶し、沖縄県ワシントン事務所について紹介し、近く面談したい旨を伝えました。

■平成 30 年 7 月

(1) シンポジウムの傍聴 (17 日)

東西センター・ワシントン DC が主催するシンポジウムに参加しました。「沖縄のミレニアル（※新世紀人）たちの米軍基地に対する姿勢」と題して、東西センターの調査事業で実施された沖縄の若者 18 歳から 45 歳を対象にした調査結果について報告し、意見が交わされました。

(2) シンポジウムの傍聴 (12 日)

韓国経済研究所米国及び韓国国際経済政策研究所が主催するシンポジウムに参加しました。「北朝鮮に関する次の段階～非核化と新たな関係の構築～」と題して、米朝首脳会谈後 1 カ月のタイミングで米韓の有識者が考えを共有し、意見が交わされました。